

【土地利用について】

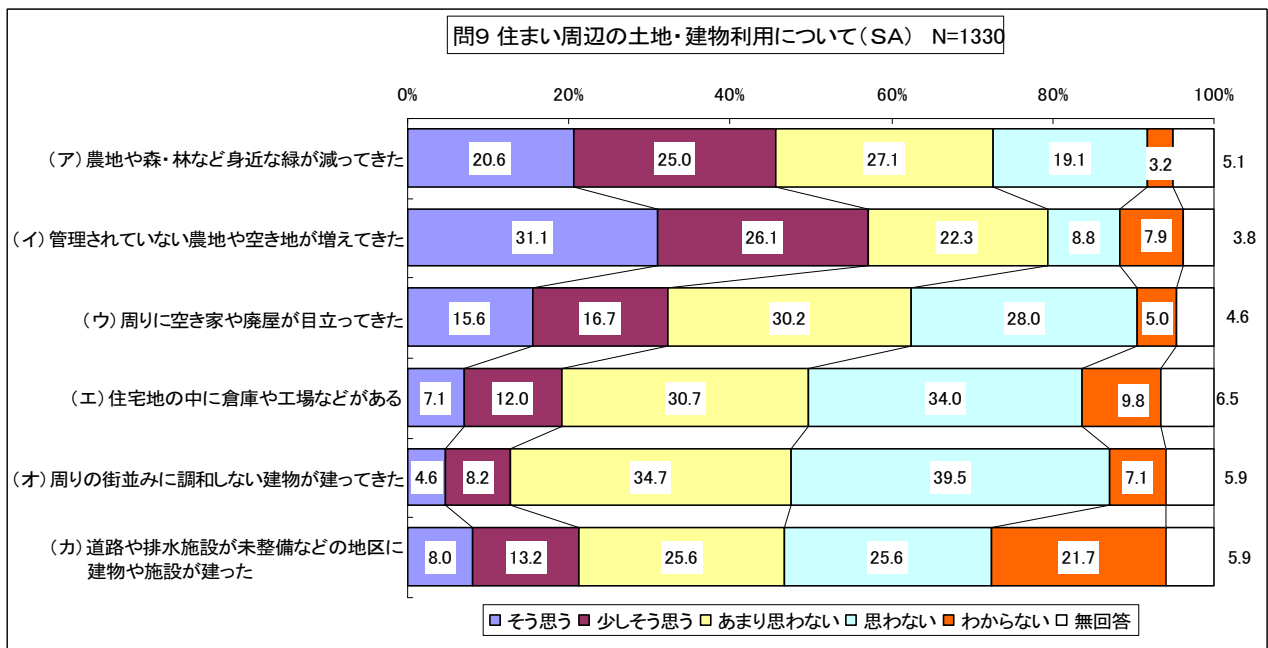
問9 住まい周辺の土地・建物利用

現在あなたがお住まいの周辺の土地・建物利用についてお聞かせください。次の（ア）から（カ）の各項目について、「そう思う」から「思わない」までの5つの選択肢から、それぞれ1つずつ選んで、番号に○印をつけてください。

○ 住まいの周辺の様子では、“**荒廃農地や空地の増加**”や“**緑の減少**”が目立ちます。

住まい周辺の土地・建物利用に関して6つの質問をしたところ、肯定的意見（「そう思う」と「少しそう思う」の計）の割合は、「（イ）管理されていない農地や空き地が増えてきた」と「（ア）農地や森・林など身近な緑が減ってきた」が4割以上と目立ちます。

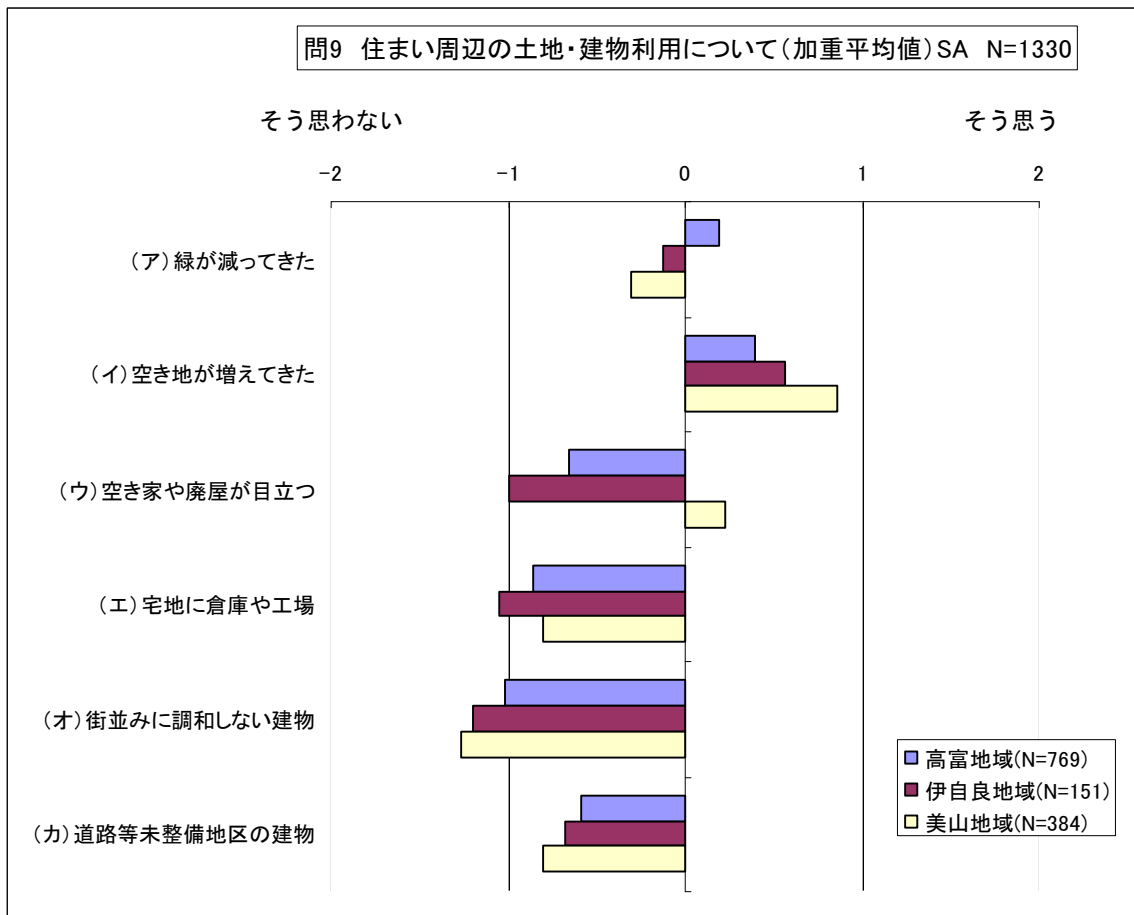
その他の項目では、肯定的意見は1～2割で、否定的意見（「あまり思わない」と「思わない」の計）が大きく上回っています。ただ、「（カ）道路や排水施設が未整備な地区に建物や施設が建った」については、やや専門的で評価が難しかったためか、「わからない」が目立ちます。



<地域別>

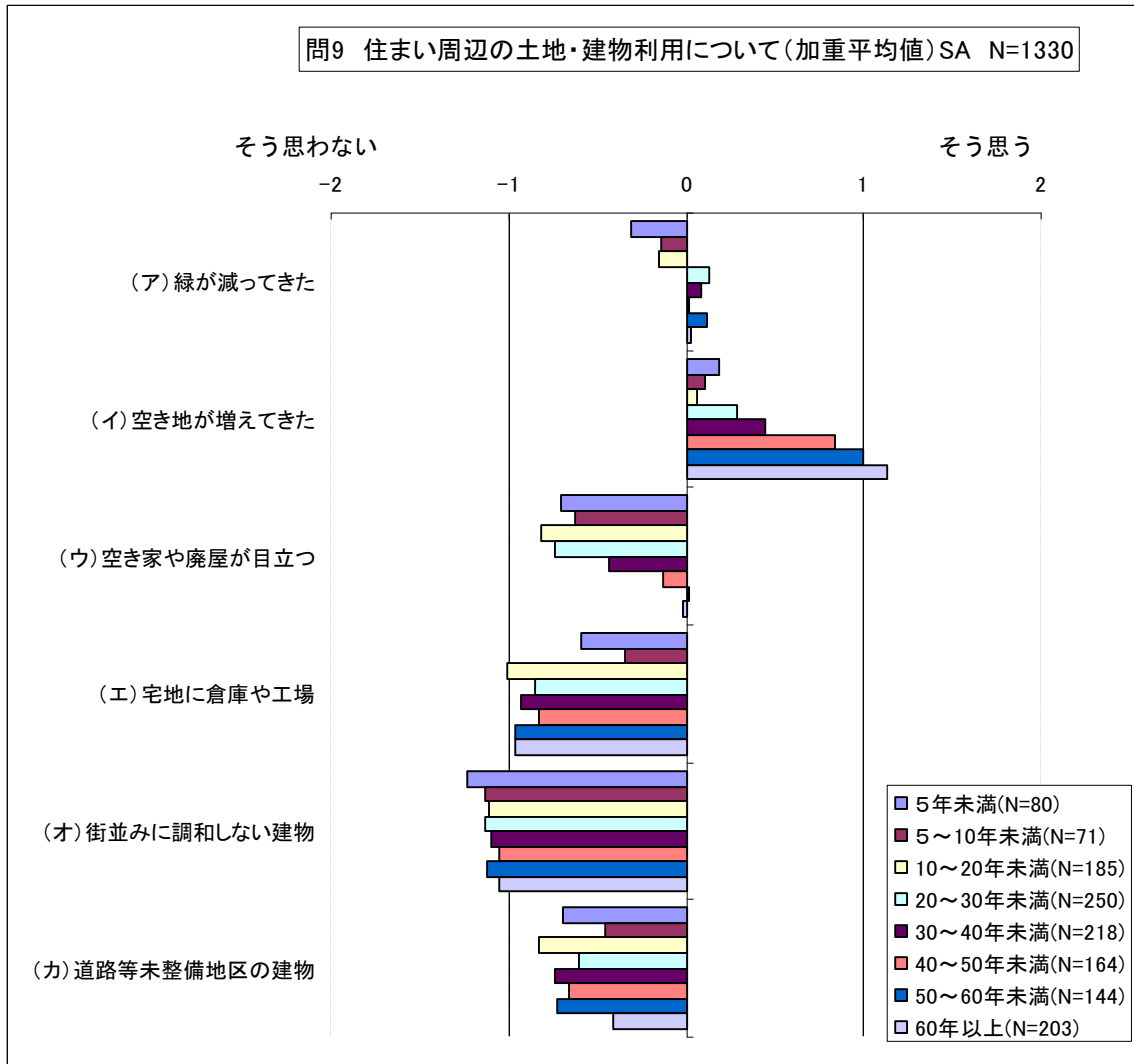
いずれの地域でもマイナス評価(肯定的意見の割合の方が多いこと)になった項目は、「(イ)管理されていない農地や空き地が増えてきた」で、特に「美山地域」が目立ちます。

また、「高富地域」で「(ア) 農地や森・林など身近な緑が減ってきた」、「美山地域」で「(ウ) 周りに空き家や廃屋が目立ってきた」がマイナス評価となっており、都市化と過疎化が進む地域を有する本市の2面性がうかがえます。



<居住年数別>

居住年数が長くなるにつれて、「(イ)管理されていない農地や空き地が増えてきた」や「(ウ)周りに空き家や廃屋が目立ってきた」と評価する傾向がみられます。居住年数の長い市民は、土地・建物の状況から、ややまちの活気が低下してきていると感じているようです。一方、居住年数が長くなるにつれて、「(ア)農地や森・林など身近な緑が減ってきた」もわずかながら高まっており、都市化に伴う緑の減少が影響していると考えられます。



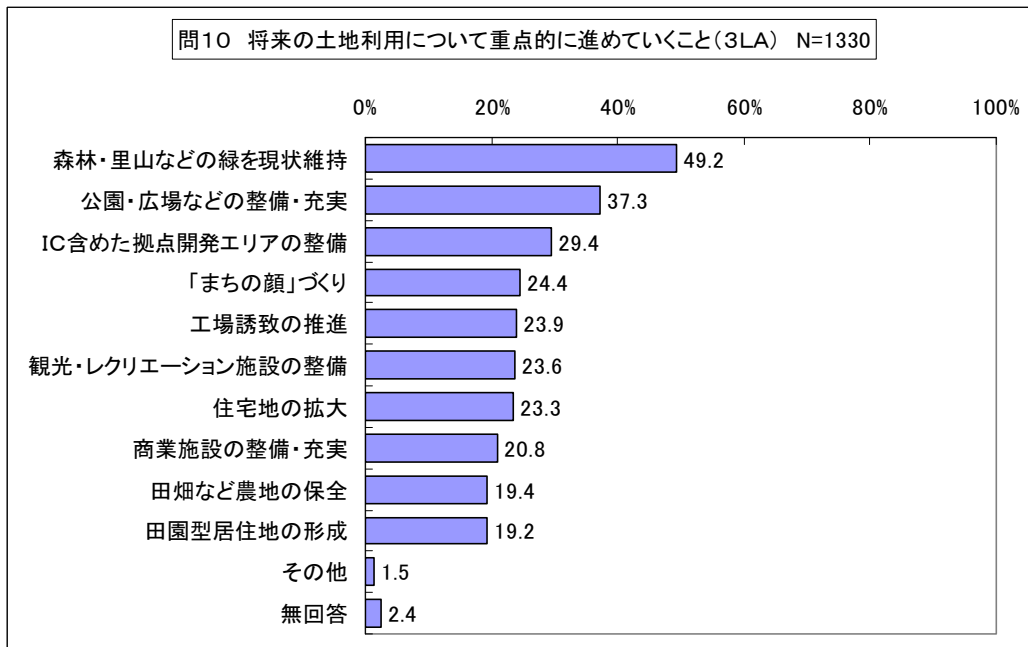
問10 将来の土地利用について重点的に進めていくこと

山県市全体の将来の土地利用について、何を重点的に進めていくことが望ましいと思いますか。あなたが特に重要と思うものを次の中から3つまで選んで、番号に○印をつけてください。

○土地利用での重視点は、“緑の保全”と“公園・広場の整備”、“インターチェンジを含めた周辺整備”などです。

将来の土地利用の重点方策としては、「森林や里山などの緑を現状維持」が5割と最も多く、これまでの設問同様、“自然・緑の保全”への期待がうかがえます。

第2位以降は「住民が集い、憩う公園や災害時にも活用できる広場の整備」、「インターチェンジを含めた拠点開発エリアの整備による地域の活性化」の順となっています。また、第4位以降は、いずれも2割前後で、意見は分かれています。



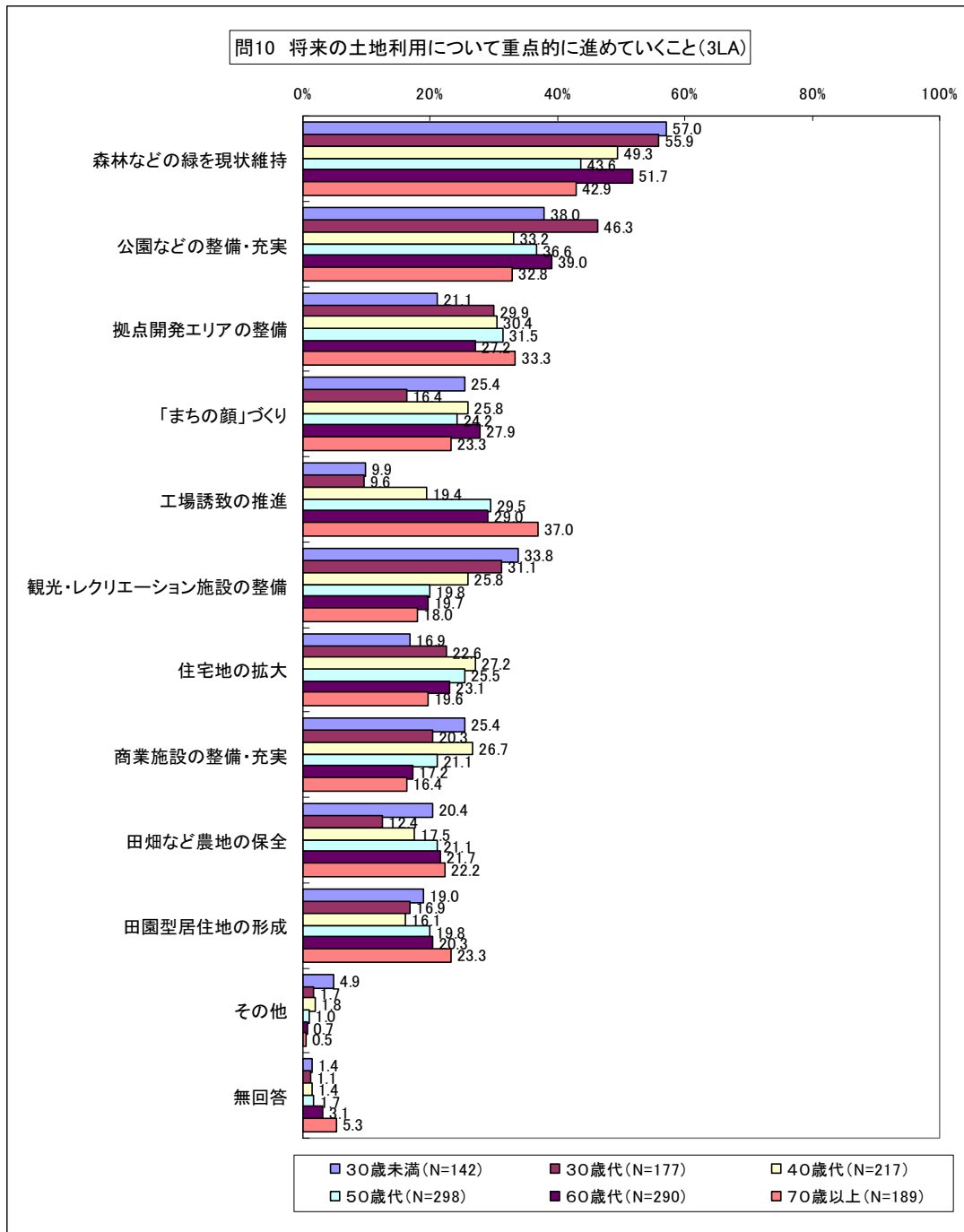
＜その他＞

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 通学路の確保、整備。(5) ● 農道の整備。(2) ● 歩道の整備。(3) ● 街灯の増加。(2) ● 高速道路設置に伴う道路調査・整備。(2) ● 住民の声を聞いた道路整備。(2) ● 高速道路の早期開通。 ● 歩道駐車で自転車が通りにくい。 ● これ以上道路を増やさないで。 ● 現在の道路の有機的結合をしてほしい。 ● 国道418号の整備。 ● 点滅信号への切替時間が早すぎて危険。 ● 旧美山へ行く交通の整備。 | <ul style="list-style-type: none"> ● 住宅周りの生活道路の整備。 ● 私道の廃止。 ● 車椅子の通れる道の設置。 ● 街路樹があり歩道が狭く危険。 ● 宅地の木等が道路にはみ出さないように。 ● 中心部に集中しない整備。 ● 信号ばかり増やさないこと。 ● 地域が分断されないような整備。 ● 道路を太くするばかりではダメ。 ● ベンチなど一休みする場所があると良い。 ● 不必要な道路整備よりも公共交通の整備。 ● 車が主になると道路の痛みも速い。 |
|---|---|

<年齢別>

「森林や里山などの緑を現状維持」や「住民が集い、憩う公園や災害時にも活用できる広場の整備」は、いずれの年齢階層でも上位を占めています。また、若年層ほど、「みんなが楽しめる観光・レクリエーション施設の整備・充実」への関心が高くなっています。

しかし、年齢階層が高まるにつれて、「森林や里山などの緑を現状維持」や「みんなが楽しめる観光・レクリエーション施設の整備・充実」の割合は低下し、「工場の誘致活動による工業地の拡大」への期待が高まります。若年層は地域資源を活かした観光・交流による活性化を重視しているのに対し、中高年齢層は工業振興による活性化を重視していると言えます。



<地域別>

地域を問わず、「森林や里山などの緑を現状維持」への関心は高くなっています。また、「高富地域」は「住民が集い、憩う公園や災害時にも活用できる広場の整備」や「インターチェンジを含めた拠点開発エリアの整備による地域の活性化」を重視しているのに対し、「伊自良地域」は「農業を活かしたゆとりと安らぎのある田園型居住地の形成」や「田畑や果樹園などの農地の保全」を、「美山地域」は「工場の誘致活動による工業地の拡大」を重視しています。

